

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 http://www.higurashi.net/ 第0053号
護國青年會議機関紙 http://www.gokoku.net/ 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成20年9月30日

難問山積する漆黒の海へ、麻生内閣苦難の船出

祝福田退陣、麻生新総裁誕生

「小沢さん家のイツちゃん
が慮めるから、もう辞めて」
と言ったか、言わないか定か
ではないが九月一日夜、福田
ポン助の唐突の辞任を受けて
自民党は直ちに総裁選に突入
した。思えば一年前にも国民
は同じ様な場面に遭遇してい
るが、決定的な違いは、当時
の安倍首相には、辞任の直接
的な原因となつた健康問題と
保守層からの根強い支持があ
つた点である。総理の資質と
いう観点からみても、何事に
おいても他人事であつた福田
とは異なり、安倍には日本を
何とかしようとする気概が感
じられた。マスコミは二人の
首相の辞任を一括りにして、
政権の投げ出しと批判するが
安倍の辞任と福田の辞任を同
列に扱うことは、味噌も糞も
一緒にするようなものである。
総裁選突入、乱立した候補者
福田の辞任を受けて、いち
早く手を挙げたのは、本命と
目されていた麻生太郎幹事長
である。麻生にとつて今回の
総裁選は、平成十三、十八、
十九年に次いで四回目の挑戦
である。昨年の総裁選では、
党内の九派閥のうち八派閥が
勝ち馬に乗ろうと、雪崩をう
つて福田支持にまわる中、孤
立無援で戦い、大善戦したこ
ことは記憶に新しい。

派閥政治の終焉とその劇烈

とにもかくにも、総裁選は
ベテラン(麻生、与謝野)と中
堅(石原、石破)、そして女性
候補(小池)の争いとなつた。
候補者の中で、派閥の領袖は
麻生だけで他の候補者は無派
閥であったり、派閥に所属し
ていても、それぞれの領袖の
支持を得てはいない。昨年の
総裁選は、ひと昔前の自民党
に戻つたかのような派閥談合
選挙だったが今回はいっしょに
様変わりし、各派閥の対応は
様々であった。特筆したいの
は党内の若手を中心となつて
推薦した石原と石破の立候補

である。これまでなら派閥の
ボスの締め付けにあり、出馬
はおろか推薦人に名を連ねる
ことさえままならなかつたが
今回、推薦人を確保し見事に
立候補することができた。同
じことは小池にも言える。小
池は中川秀直元幹事長の支援
を受けて、実質的なオナー
である森元首相に反旗を翻し
て立候補を決めた。
三人の立候補は、派閥政治
の終焉を告げるもので、嘗て
「三角大福」と呼ばれた派閥
の領袖たちが、派閥ぐるみの
総裁選で鎬を削り、骨肉の争
いを展開したことがあるが、
今や隔世の感である。
石原の所属する山崎派、石
破の津島派、小池の町村派は
それぞれ大なり小なり亀裂を
残した。特に小池の所属する
町村派は、小池の立候補によ
つて森元首相と中川元幹事長
の確執は決定的なものとなり、
将来に深い傷跡と禍根を残す
こととなつた。

新総裁誕生と候補者の明暗

十二日間にわたる選挙戦が
終わった二十二日、自民党は
両院議員総会を開いて、党所
属国会議員と都道府県連代表
による投票を行った結果、麻
生太郎幹事長を第二十三代総
裁に選出した。

総裁選は当初から麻生の優
位は不動のもので、党の思惑
とは裏腹に盛り上りに欠け、



複雑な表情の前総裁と小池百合子

白々しいムードの漂う十二日
間であつた。このことは黨員
の投票率にも如実に表れてい
る。大部分の都府県は六十%
を下回り、中には五十%にも
満たない県が七県もあつた。
自民党の顔を決める選挙と
はいえ、現時点では内閣総理
大臣を決める選挙である。こ
の低投票率は、国民の自民党
離れを顕著に物語っていると
言えるのではないか。

第一回目の投票で、麻生は
他の候補を圧倒し、全体の六
十七%を獲得して総裁の座を
射止めた。麻生優勢の声が大
きくなつても、陣営は「昨年
の轍は踏まない」その一点に
集中して戦い抜いた。総裁選
では景気対策が大きな争点と
なると言われていたが、各候
補者の主張は最後まで噛み合
わず、一人はしゃいでいたの

は小池百合子だけである。小池は「霞ヶ関をぶっ壊す」と言っ
て氣勢を挙げた。七年前に小泉
元首相が「自民党をぶっ壊す」と
言っで国民の支持を得たことが
あった。小池の氣勢は二匹目の
泥鰌を狙ったもので政策の裏付
けがないまやかしに過ぎない。
さらに小池は「閣僚就任を依頼
されても固辞する」と発言して
いる。頼まれもしないうちから
「固辞する」とは、どういう神
経なのか、思ひ上がりも甚だし
い発言だ。総裁選に絡んだ小池
のこうした言動は党内での反発
を買い、小池を支援した二人の
元幹事長・中川秀直、武部勤と
ともに派内での立場は、一段と
厳しいものとなった。

麻生に次いで第二位となつた
ものの与謝野は世論の認知度を
上げることはできたが、当選九
回のベテランとしてはやや厳し
い結果となつた。持論の消費税
率引き上げを展開し、政策論議
の牽引役となり「反麻生票」を
取り込もうとしたが麻生の牙城
を崩すにはいたらなかつた。表
向きは痛手を被つたようには見
えないが、与謝野の年齢や持病
を考えると「含み損」といつた
ところが妥当ではないだろうか。
麻生に敗れた四候補は、今回
の総裁選が初出馬であつたとい
う点で共通するものがあるが、
それぞれの今後の政治活動にお
ける明暗を分けたことも事実で
ある。急騰した「石破株」と急
落した「小池株」、「含み益」の
石原と「含み損」の与謝野。い
ずれにしても麻生に大きく水を
開けられたという点では五十歩
百歩と言えなくもない。

暴落した小池株とは逆に一気
に存在感を増したのは、石破茂
前防衛相だ。石破は知悉した安
全保障分野で、自衛隊の最高責
任者は内閣総理大臣であること
を言及するなど独自の主張を展
開し、ネット上では「ポスト麻
生」と言われるほど人気は急上
昇中だという。総裁選では最下
位に甘んじたとはいえ、所属す
る津島派を継承する一人として
頭角をあらわす勢いだ。

「今ここに立ちますときに、
これは政治家・麻生太郎に与え
られた天命と思います」新総裁
就任の挨拶でこのように述べた
麻生の言葉の端々に見られる意
気込みは、前任者とは雲壤の差
があつた。

石原伸晃元政調会長も、所属
する山崎派の支持は得られなか
つたが、及第点の票を得ること
ができた。また石原慎太郎都知
事の長男という武器と知名度は
今後も生かせそうで、総裁候補
としての可能性は残せた。

「民主党に勝つて天命を果た
す」麻生の言葉は奇しくもこの
日、生誕百三十年を迎えた祖父
吉田茂元首相への誓いの声にも
聞こえた。麻生が日本を再生し
て「天命」を果たすことができ
るのか、決戦は目前だ。

天命を果たせるか、麻生新内閣誕生



勢ぞろいした麻生内閣閣僚

麻生内閣閣僚名簿

- 総務相／鳩山邦夫
- 法相／森英介
- 外相／中曾根弘文
- 財務相／金相／塩谷立
- 文部科学相／石破茂
- 厚生労働相／二階俊博
- 農林水産相／中野山成
- 経済産業相／藤田靖夫
- 国土交通相／河村健夫
- 環境相／浜田
- 防衛相／官安委
- 官房長官／甘利野田
- 国家公安委員相／小
- 経済財政改革担当相／
- 行政消費者担当相／
- 少子化担当相／

九月二十四日、麻生が第九十二代内閣
総理大臣に選出され、新内閣の顔ぶれが
決まると、メディアや野党各党は一斉に
バッシングを始めた。民主党の菅代表
行は「首相経験者の子や孫が四人もいる
江戸時代の將軍選びのようだ」と世襲批
判を展開している。まるで民主党の執行
部には首相経験者の子や孫がないよう
な物言いをしているが、鳩山幹事長の祖
父は元首相の鳩山一郎ではないか。
社民党党首の福島瑞穂は「賞味期限切
れ、ラベルの貼替え」と批判するが賞味
期限が切れてゴミ箱に捨てた「社会党」
というラベルを拾い出し、ラベルを貼り
替えている自分たちのことは見えてい
ないようだ。
マスコミは「論功行賞内閣」だの「お
友達内閣」だのと言葉遊びのような批判
をしている。論功行賞の何処が悪いとい
うのか。功のあつた人に報いることは、
リーダーとして当然のことである。

「お友達内閣」なんて一人前の大人が
使う言葉か、いい加減にしる。信頼関係
に結ばれた同志ということではないのか
結構なことではないか。くだくだ文句を
言うのなら対案を出せ、このポストなら
この人の方が適任だという対案を出して
みる、言葉を弄ぶだけが仕事ではない。
新内閣の行く手には景気対策、食の安
全、高齢者医療制度問題等々難問が山積
している。近年まれに見る媚中政権が遺
した負の遺産を払拭し日本を真つ当な国
に戻せるか、「天命」を背負つた麻生内閣
は漆黒の海に向つて出航した。